黒川能の里王祇会館 - 黒川能保存会webサイト

能は14世紀から上演されており、日本の伝統芸能の最古の形式であり、現在でも行われている世界最古の演劇芸術の1つとなっています。そのルーツは、猿楽(能より前の劇の一種)にあります。今日、能の現代的な流派には、観世、宝生、金春、金剛、喜多があります。

能は元々、仏教の寺院で最初に演じられました。それは戦争と激動の時代に始まりました。能での幽霊の頻繁な出現と演者によるそれら能面の使用が、その始まりを示しています。

黒川能とは、山形県鶴岡市黒川地域で受け継がれている能の一種です。その要素のいくつかは、能の伝統的五流派のものに似ていますが、そのパターンとテーマは独特のもので、黒川能は専門の役者ではなく、主に地域の農民である春日神社の教区民により行われます。

能が黒川にきた経緯は定かではありません。後小松天皇（1377-1433）の三男である小川王子がこの地区に滞在し、地元の人々に猿楽を紹介したという説があります。かつての大名たちは能を強く支持し、次の世代へと受け継いでゆきました。そうして黒川能の伝統は500年もの間、その演者そして地元の人々に受け継がれてきたのです。

黒川能の保存への取り組み

黒川能保存会は、黒川能の伝統を守るために1961年に設立されました。山形県鶴岡市の南西にある当時の櫛引町長が議長を務め、町の役人、上座下座のメンバー、春日神社の神主さんなどが運営していました。

指導部は他の神社や座と協力して、旧正月を祝い平和と豊作を祈願する毎年2月に開催される黒川能の公演を世に広めるために尽力しました。

黒川能は1976年に国有無形民俗文化財に指定されました。10年後、鶴岡市長を中心に黒川能関係者や市町村の関係者、民俗芸能の専門家を含めた黒川能保存・伝統プロジェクト推進協会が設立されました。協会は、会員や個人からの寄付を募り、黒川能の保存を更に促進しました。

その後の数十年間、黒川能保存協会と黒川能保存伝統プロジェクト推進協会は、研究機関からの協力要請への対応、メディアでの宣伝、演者団体への資金援助、要請の管理など、さまざまな活動に尽力しました。公演のために、2013年には、既存の団体が協力して黒川能保存会を結成し、黒川能という文化財を支援することを目的とした公益財団になるに至りました。

黒川能保存会の主な活動は3つあります。能面、衣装等の修理、交換、歴史資料などの調査、目録作成。黒川能とその公演の宣伝。そして、その保存努力の後継者を見つけることです。

黒川能は500年の歴史があり、歌、動き、踊り、着付け方などを学ぶには、レッスンだけでなく、記録や動画などの資料の勉強も必要です。保存会はこのプロセスを促進するためにこれらの物を維持しています。また、国や県の文化財に指定されているものも含め、数十年さらには数世紀の摩耗で損傷した能の衣装等を維持、修理、交換しています。黒川能保存会は、黒川能を次世代に引き継ぐための寄付に感謝し、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

黒川能保存会は税法上の特定公益法人であり、その目的を支援する慈善的寄付には税制上の優遇制度が認められております。